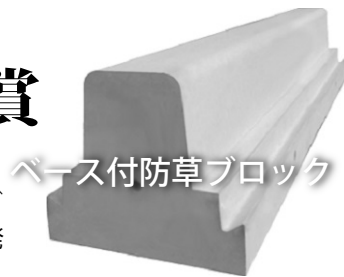


全国防草ブロック工業会の 防草製品技術が「国土技術開発賞」を受賞



安全に安心して暮らせる、人・もの・情報が効率的に通いあえる、心豊かに暮らせる快適で美しい国土の形成を目指すことが必要です。本「国土技術開発賞」は、建設産業におけるハードな技術のみならず、ソフトな技術も含めた広範な新技術を対象として表彰するもので、技術開発者に対する研究開発意欲の高揚並びに建設技術水準の向上を図る事を目的とされています。

受賞テーマ：植物の特性を利用した防草技術

平成26年度(第16回)

【国土技術開発賞】

最優秀賞1件、優秀賞3件、入賞5件、地域貢献賞2件

全国防草ブロック工業会（所在地：愛知県豊田市、矢野コンクリート工業(株)内）が全国展開している、次世代ブロック「防草ブロック」は平成26年度「第16回 国土技術開発賞」【主催：(財)国土技術研究センター・(財)沿岸技術研究センター、後援：国交省】を受賞しました。受賞式典は平成26年07月30日、東京国際フォーラム(東京、丸の内)で開催され全国防草ブロック工業会会長・矢野明正氏(右)、防草研究会石川重規氏(左)らが受賞式典に登壇しました。

(財)国土技術研究センター理事長・谷口博昭氏の主催者挨拶の後に、来賓である国土交通大臣の太田昭宏氏の来賓挨拶が述べられました。選考委員長である東京都市大学名誉総長・中村英夫氏(中央)からは厳選なる審査のうえ二次審査を得て最終評価され、受賞技術のどれもが国土技術開発賞の目的と趣旨に値し、新規性・独創性・汎用性に優れており、将来的にも十分に期待できる技術と評価したと講評を発表した。また、審査委員には国土交通省技監をはじめ大臣官房技術総括審議官、国土技術政策総合研究所長、土木研究所、建築研究所、港湾空港技術研究所各理事長含め、総勢12名の有識者からなる委員構成で評価されている。今回の表彰は地域貢献技術賞を含め受賞総数は11賞と例年より選考数が増えており、土木・建設・製造、社会資本に係わる各分野の技術開発が、社会に果たす役割や期待が極めて多かった事を表しており、受賞技術の全てに今後の豊かな社会と国づくりには欠かせない技術として評価された。



来賓挨拶：太田昭宏国土交通大臣

全国防草ブロック工業会会長・矢野明正氏は、本防草技術は昨年の「環境賞」受賞に続き、本年度はこの「国土技術開発賞」という名誉ある賞を頂きました事は、防草ブロック製品・技術のニーズを改めて大きく感じ、責任の重大さを認識致す次第であります。今後は、この技術を広い分野での商品開発に努め、地球と人類との環境に大きく貢献できます様、会員を広く募り、採用頂いた国交省県市町村のご要望に対応していきたい。と述べています。また、防草研究会代表・石川重規氏は、植物の屈性から得た成長抑制の有効範囲を実証研究を基にコンクリートやグレーチング製品の目地部へ構築させる事で防草機能を持った製品の開発を可能とした。それは、経年効果を維持する事で、道路利用者や生活者、また何よりも道路維

持管理者にとっても「大きな安心」となるのです。私たちの生活は自然からの恵みを受けながら様々な文化や社会が進化発展してきました。衣食住から健康、四季折々に草花も開花し自然の美しさが人々に喜びや癒しも与えてくれます。しかし、私たちは豊かな生活を優先してきた事も多くありました。今後は社会と将来へ向けた解決策の一部と考え、製品種拡大と地域性への対応にピッチを上げなくてはなりません。私たちはインフラ整備の単なる二次製品提供集団から未来へ繋がる環境整備軍団としての意識を持ち新たな挑戦を続けて参りたい。と述べている。

昨年の「環境賞」と「国土技術開発賞」の審査と評価基準の違いもあるが、この2賞の主催者、錚々たる有識者達(審査委員)、そして後援省庁との関係を見ても「国土と環境」と、今の時代と社会には不可欠な意を持った製品として防草ブロックは、期待と共に「大きな評価」を得る事となった。

